

Special Interview

「視点」大坪清 レンゴー会長兼社長

「顧客最優先主義」の理念こそがCEO 私は代弁者であり実行者

大原孝治

ドンキホーテホールディングス社長兼CEO

14

特集① AI革命



大原孝治・ドンキホーテホールディングス社長兼CEO

総論 革命的進化をもたらしたAIへの熱狂

NEC 社会ソリューション事業を牽引するAI技術

30

「人工知能を補助脳として活用」

山海嘉之

CYBERDYNE社長/CEO

IoTの世界で機械同士を協調させるネットワークをつくる

Preferred Networks社長

32

PepperのAI

「コミュニケーションAIは超自我の形成が鍵に」

吉田健一

ソフトバンクロボティクス 事業推進本部長

長谷川修

SOINN社長

34

富士通

AI技術体系化で、事業推進姿勢を明確に打ち出す

田中潤

Shannon Lab社長

36

News Report

マイナス金利の不評受け日銀が4月に仕切り直しの追加緩和と消費増税延期は既定路線?! 低所得者対策が格好の口実に西室泰三社長の突然の退任で揺れる日本郵政

高島屋参入で競争必至の空港型免税店 ゴルフ人口増加に光明! 注目が集まるPGMホールディングスの次の一手

44 42 40

Company Report

日本版DMOを継続するための取り組みを提供

吉井靖

うぶすな社長

50

Topic Interview

「日本の太陽光発電市場で確たる地位を築きたい」

南晟祐

インファクセルズCEO

52

「自分で電気を『作り』売る」取り組みで新たな電力会社を目指す

中村創一郎

Loop社長

54

「住のグーグル」を目指しクラウド事業で不動産業界を席巻

岩名泰介

いえらぶ社長

56

企業統治の正鵠

但木敬一×牛島信 後編

弁護士・元検事総長

弁護士・作家

72

シリーズ温故知新

第48回「二所懸命」与えられたものに全力で取り組む

関本忠弘

日本電気社長(当時)

76

特集②

マイナス金利の功罪

背景に国際金融市場の混乱 マイナス金利幅拡大もあり得る

河野龍太郎

RNDBパリバ証券チーフエコノミスト

80

マイナス金利は危険な賭け 膨れ上がるやめどきのリスク

小林真一郎

三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員

81

マイナス金利を論じる前にアベノミクスの進め方を考え直すべき

矢嶋康次

三菱UFJ基礎研究所経済研究部チーフエコノミスト

82

Column 欧州のマイナス金利事情は日本の参考となるのか 必要に応じて直ちに使用できる政策的カードを持ったことを評価

早川英男

富士通総研経済研究所エグゼクティブウエー

84

流れは投資から貯蓄へ 頼みは不動産関連投資

大槻奈那

マネックス証券チーフアナリスト

85

7

Dr. 龍のデントルセミナー

連載

フェイス 阿部幸広

フェイス 阿部幸広

現代医療の真相 米山公啓

成功法則の「見える化」と「できる化」 坂本善博

中村龍明の ミニシヨット110番

「大学シリーズ名門の系譜」 立教大学

東洋大学 PHOTO REPORT

アサヒグループHD 経済界倶楽部

東京・横浜3月例会 HEADLINE

イノベーターズ 新時代を創る経営者たち

企業EYE MARKET EXPRESS

大人のエンタメ 書評

FROM EDITOR

永田町ウォッチング 鈴木哲夫

霞が関番記者レポート スポーツインサイドアウト

年収1億円の流儀 江上治

カオス(混沌)の国 インド市場を知る

実録! 関西の勇士たち 真島弘

グローバルニュースの深層 佐藤優

ニューヨークレポート 津山恵子

WORLD INSIGHT 藤田勉

深読み経済ニュース解説 三橋貴明

「顧客最優先主義」の理念こそがCEO 私は代弁者であり実行者

ドンキホーテホールディングス社長兼CEO

大原孝治



創業者の安田隆夫氏が勇退して約10カ月。カリスマ経営者が去った後もドン・キホーテの勢いは衰えず、2016年6月期には27期連続増収増益を達成する見込みだ。インバウンドの追い風はあるものの、好調の要因はそれだけではない。売上高1兆円企業を目指す同社の強みと今後の展開、そして「安田イズム」の継承者として、どのようなリーダーシップを発揮しているのか、大原孝治社長を直撃した。

個店主義の徹底によって 小売業界で好調を維持

—— 昨年7月にCEOに就任されましたが、27期連続増収増益が見えています。好業績の要因は何でしょうか。

大原 あくまでも経営者としての視点ですが、創業以来、当社がインバーションを欠かしていない

米Googleが開発した囲碁用の人工知能（AI）と世界トップクラスの棋士との対局が話題となったように、AIへの注目が高まっている。ビッグデータ時代の到来とコンピューティング技術の進化により、現在は第3次AIブームのただ中にある。本誌では昨年、テクノロジーの進化が導く近未来のビジネスとして、ロボットとIoTについてそれぞれ特集を企画したが、両分野の今後の発展の鍵はAIの革新的な進化が握っている。本特集では、AIの進化とそのビジネスを展望する。（本誌／村田晋一郎）

Photo Motoki Sato Illustration Noriko Sato

特集①

AI革命

革命的進化がもたらした AIへの熱狂

ディープラーニングの登場が第3次AIブームを牽引

人工知能(AI)への関心が高まっており、現在は「第3次AIブーム」といわれる。第3次といふことは、過去に2回のブームを経て現在に至っているわけだが、「第1次AIブーム」はAIの概念が登場した1950年代に始まった。次の「第2次AIブーム」は日本で第5世代コンピュータの開発が進められた80年代に起こった。しかし第1次、第2次ともにブームと言われるほど熱い期待に応える成果を出せずに終焉を迎え、AI研究のコミュニティは2度の冬の時代を経験することになる。

現在言われている第3次AIブームは2010年代に入って始まった。まずデータを見てパターンを見つけ出す「機械学習」

のアルゴリズムが第2次ブーム以降の冬に時代に開発された。ただし、機械学習が効果を発揮するには大量のデータが必要だった。それがビッグデータの時代が到来し、大量のデータを使えるようになった。さらに大量のデータを処理するためのコンピュータ学習、ビッグデータ、コンピュータ学習の3つの要素が革命的進化を遂げたことが、第3次AIブームの萌芽となった。

そして機械学習の一つとして、「ディープラーニング(深層学習)」という手法が開発された。ディープラーニングは、脳の神経細胞が情報を伝達する仕組みをモデル化した「ニューラルネットワーク」を多層構造に重ねたもの。高度な推論が可能になるが、何度も計算を重ねるため、膨大なコンピュータの能力が

必要だった。それがコンピュータ学習の進化によって、ディープラーニングが実現できるようになり、現在の第3次AIブームを牽引している。

このディープラーニングによりAIの能力は飛躍的に向上した。注目を集めた米グーグルの囲碁用AIもディープラーニングによるものだ。

ただしディープラーニングは自動車に例えるとF1マシンに当たる。ピーク性能が高いが用途に限られる。現状では画像認識などで強みを発揮しているが、逆にできないこともまだ多い。現在のブームの熱狂で期待が高まっている中、AIへの期待と実際にできることのギャップが失望を生むことを危惧する声もある。

その一方で、ディープラーニングに限らず、他のAI技術の